



いいたて 議会だより



発行：福島県飯舘村議会
編集：議会広報編集特別委員会



【 利用者が増えているスポーツ公園 】

予算審査特別委員会	2～3
議案審議「ザ・議論」	4
一般質問「ズバリ村政 ここが聞きたい？」	5～11
審議結果	12～14
要望活動「東京電力福島第一原子力発電所事故に係る 飯舘村の復興と再生に関する要望書・要求書」	15
議会の動き・常任委員会活動・編集後記	16

相良 弘委員長

高橋和幸副委員長

平成31年度当初予算

予算審査特別委員会

一般会計予算は
143億
2,000万円

平成31年度当初予算は、予算審査特別委員会を設置し委員長に相良弘委員、副委員長に高橋和幸委員を選出して3月11日から3日間一般会計と特別会計の6会計を審査いたしました。

一般会計は前年比50%増の143億2000万円、5特別会計は前年比、22%増の31億694万円。予算総額は、前年比44%増の174億2694万円となり、過去2番目となる大型予算です。委員の活発な質疑により審査が行われ、一般会計予算は一部修正して、5特別会計予算は原案の通り可決すべきものと決定しました。

重点事業について

質問 各課の今年の重点事業は。

答弁 総務課は

・第6次総合振興計画の策定

・長泥の復興拠点の居住促進ゾーンの整備
・深谷地区多目的交流広場の整備であります。



▲多目的交流広場予定地

復興対策課は

・被災地域農業復興総合支援事業でのライセンサーとラック式倉庫の建設

・県の営農再開支援事業
・商工労政では事業再開支援事業でプレミアム商品券の発行
・パークゴルフ場の造

成であります。
健康福祉課は

・調剤薬局の開設
・村民の足の確保事業でコミュニティバスの増車であります。

住民課は

交通安全

・防犯とごみ処理

・滞納税の徴収

・固定資産税の現況課税

・自治会同窓会の事業補助であります。

建設課は

・大師堂住宅団地12戸の整備

・農業基盤整備計画策定

・ため池の放射線対策

・村道の橋の長寿命化

・策定と修理舗装工事

・農業集落排水・簡易水道の本格整備

教育課は

・義務教育学校の設立と保護者生徒・児童

各ニーズを意識した

事業展開で帰還促進

を進めます。

生涯学習課は

・ラオスパラリンピック

選手団の合宿受け入れ

・文化祭と学習発表会の合同開催

・スポーツ公園の利活用促進

農業委員会は

・農地利用の最適化に

向け中間管理事業に

取り組みます。

第6次総合振興計画策定について

質問 内容について伺う。

答弁 専門の業者にコンサルタントとして

入っていただき（委託

料1,034万円）、31

年度は各種調査・村民

アンケート・データの

集積、32年度は取りま

とめと計画策定と考え

ております。

深谷地区多目的交流広場の整備について

質問 整備内容について伺う。

答弁 親と子供が一緒

に遊べる広場としての公園と屋内施設、村のシンボルとしてブロンズ製ベンチの設置を予定しております。

ブロンズ製ベンチは2基で諸経費合わせて3,000万円でありま

す。財源はふるさと納税を使わせていただきます。



▲ブロンズ製ベンチイメージ

福島森林再生事業について

質問 4,400万円

程計上されているが事

業内容について伺う。

答弁 二枚橋地区の計

画策定業務と同意取得

業務又、佐須前乗地区

の事業の実施でありま

す。伐採木は現場内保管となります。

パークゴルフ場整備工事について

質問 工事内容について伺う。

答弁 隣接地の取得と平成30年度の繰越工事と今年度予算での整備工事で18ホールの芝生張り付け及び植栽等があります。

調剤薬局の開設について

質問 調剤薬局の再開条件・業務内容について伺う。

答弁 月曜から金曜まで週5日間の営業と介護用品の販売・クリニックの開設日に合わせての調剤。また、村の保健事業・栄養管理・薬の管理等の指導もしていただきたいと考えております。なお、経営について支援の必要があり、指定管理にできないか県と相談中であります。



▲再開が待たれる調剤薬局

防犯について

質問 村内の防犯対策に大きく貢献してきた全村見守り隊が本年限りとなっているが今後の対策は。

答弁 警察による警備の継続と30年度発足した防犯指導隊も活動しパトロールを強化しております。今後も検討を重ねて次年度の計画を立てたいと考えております。

ため池の放射線対策について

質問 これまでの調査結果と今後の予定について伺う。

答弁 これまで15ヶ所の調査を終えております。5センチ刻みでの結果は、野沢地区で10センチから15センチの間の堆積土に8万7000ベクレル。

・西曾蔵で5センチから10センチの間の堆積土に6万9000ベクレル。
・広平第一で0センチから5センチの間の堆積土に9万6000ベクレルとそれぞれが地形、流域によって堆積層が違う結果が出ています。

31年度に27ヶ所、32年度に32ヶ所を調査して対策工事を行ってまいります。

児童生徒の送迎について

質問 現在使用されているスクールバスの台数は(内訳)。

答弁 今回中型バスをワゴン車に更新する予定で、更新後は

定です。更新後は

・大型バス1台
・中型バス1台
・マイクロバス3台
・ワゴン車4台の合計9台になります。

質問 送迎タクシーの年間予算(内訳)は。

答弁 今回の予算額は3,339万円で内訳は

・小型タクシー
一運行 1万4千円
・ジャンボタクシー
一運行 2万1千円
・小型バス(キロ+時間)
1キロ 100円
1時間 3,740円
年間で登校時の予算につきましては

・小型タクシー 1,080万円
ジャンボタクシー 540万円
下校時につきましては
・小型タクシー 600万円
・ジャンボタクシー 450万円
・マイクロバス 650万円
となっております。

修正内容については以下のとおりです。

一般会計修正案 (減額修正)	△3,000万円(ブロンズ製ベンチ設置費)	賛成多数で可決
	143億2,000万円 → 142億9,000万円	

委員会採決

議員名	議決結果	賛成	反対	佐藤健太	長正利一	佐藤一郎	高橋孝雄	高橋和幸	渡邊計	佐藤八郎
議案名										
平成31年度飯舘村一般会計予算修正案	可決	4	3	○	×	×	×	○	○	○
平成31年度飯舘村一般会計予算修正後(修正決定した分を除く部分)	可決	6	1	○	○	○	○	○	○	×

○は賛成、×は反対を表しています。委員長の相良 弘は表決にかかりません。

ザ・議論

1月臨時会では予算案件1件、その他案件1件、計2件が審議され、3月定例会では、発委2件、補正予算6件、一般会計1件、特別会計5件、条例改正7件、その他8件を審議、議論が交わされました。
その議論の一部を紹介します。

第一回臨時会

飯館村パークゴルフ場整備工事請負契約について

質問 造成計画の内容を伺う。

答弁 道路側は土砂が落ちないようにします。また、芝生用の盛り土をし、のり面等の成型が必要になる部分もあり、面積等は、一万五千平米位を計画しています。

質問 雨水排水はどうなっているのかを伺う。

答弁 下流に調整池があり、この部分に一度貯水して調整をしながら、飯樋川まで流すというような計画をしております。

質問 落札率は何%かを伺う。

答弁 落札率については、98・5%になっております。

第二回定例会

歳入の繰入金について

質問 財政調整基金の繰入金、見込みとの違い、見通しを伺う。

答弁 三月補正で当初六億円を取り崩しを計上していたが、剰余金がマイナス5億3千万円で、30年度は7千万円取り崩しの見込みであります。総合的には、現在11億円あり、31年度が5億5千万円の取り崩しの計上で、歳計剰余金等合わせ、31年度は10億円程となる見込みであります。

あいの沢自然体験公園について

質問 事故後の修繕を今回の補正でのマイナス要因は何かを伺う。

答弁 展望台、あずまやの全撤去改築の計画



▲あいの沢のあずまや

を立て、交付金申請をしております。復興庁との確認の中で、全面改修ではなく、破損している部分だけの改修指示があり、展望台に行く階段の一部改修となり、1,133万円程事業費減となったものです。

質問 あいの沢、放射線量調査をされて安心安全という場所、自然環境になるのかを伺う。

答弁 震災前、交流人口を図り観光の拠点として、キャンプ場・遊具施設・民家園等の施設を整備してきました。震災事故で除染も入り、フォローアップ除染、局地対策工事、里山再生モデル事業も含め、復興再生創生期の交付金活用で改修し以前と同じグレードの交流の拠点にしていきたいと考えております。

質問 あいの沢は除染を終えていても管理棟など線量の高い点もあり、村が除染基準としている5mSv/年未満なのかからない。行政の述べる予算的な部分は分かるが、いずれにしろ放射能を発している場所であり本当に除染をしたのか分からないが、場所によっては、6μSv/時の場所も存在する。どういう測定をして、安心安全と言えるのかを伺う。

答弁 本格的除染をやってきています。面的除染の後に詳細モニタリングをしてフォローアップ除染も行っています。国の里山再生モデル事業もあり、人を受け入れる場所なので、マップの配布も考えていますが、公園へ入る入らないは、自己判断になります。今後情報提供においては対応してまいります。

ズバリ 村政

ここが
ききたい？

一般質問 Q & A

3月定例会の一般質問には6議員が登壇し、村行政の考えや対応策について問いました。質問順に質疑応答を要約し掲載します。

長正 利一 議員

- 1 長泥地区復興再生計画について
- 2 帰村について
- 3 移住・定住・交流事業について
- 4 有害鳥獣駆除隊について

佐藤 一郎 議員

- 1 営農再開について
- 2 村民の買い物場について
- 3 総合振興計画について

高橋 孝雄 議員

- 1 里山の復興再生について
- 2 有害鳥獣駆除隊について
- 3 村道の整備について
- 4 荒廃家屋対策について

佐藤 八郎 議員

- 1 自然環境復活について
- 2 命と健康について
- 3 生活支援について

※一般質問とは

議員が村の行政全般について、事務の執行状況や将来の方針等について村の執行機関などの見解や取り組みについて質したり、提案・誘導していく政策議論です。

佐藤 健太 議員

- 1 村内事業所の人材確保支援について
- 2 いいたて道の駅「まごい館」について
- 3 旧学校施設の利活用について
- 4 村内の農地について

高橋 和幸 議員

- 1 本年度の行政執行について
- 2 本村における税収入の確保について
- 3 本村が将来的に直面する課題について
- 4 学校・教育について



佐藤 八郎 議員

**質 加害者(国)の言いなりで
安心・安全か**

答 放射線被ばくによる病気はあ
りません

質問 飯舘村の自然環境復活の為に、実態の検証が必要だが、村独自にどう実施されたのか伺う。

答弁 空間線量率はいちばん館前のモニタリングポストで平成23年3月15日に44・7μSv/時を記録しました。同年4月21日の測定では、農地で7・63μSv/時、宅地で7・21μ

Sv/時ありましたが、平成31年2月21日の測定では、農地で0・36μSv/時、宅地で0・26μSv/時です。

土壌放射能濃度調査では平成24年1月には9,602Bqから平成30年11月には1,765Bqです。

質問 放射性物質(毒物)の核種は、国は31核種としているが、村

に降散された毒物は何種類と確認されているのか。

答弁 国の情報により

まずと原発事故により拡散された放射性物質の核種は31種類ですが、村では、放射線量計やガンカメラで確認した放射性物質はセシウム134、137の2種類と考えております。

質問 確認した物質とその物質の持つ毒性について、動植物にどう影響しているのか。

答弁 県では、本村で捕獲したイノシシの肉の放射性物質の濃度測定を実施しております。平成25年12月に14頭、平均で2,159Bq、平成29年に7頭、平均2,983Bqでありました。植物の実や山菜は減少傾向にあり、作付け再開した白菜、大根、キャベツなど約70品目は全て国の基準値未満なので道の

駅や市場に出荷しています。しかし、キノコやコシアブラは出荷制限がかかっています。

質問 村全面積の約85

%は無除染のまま放置されているが、放射性物質(毒物)の行方はどうなっているのか。

答弁 国が調査したところ、地表から約5cm

の深さに80〜90%程度が粘土と固着して存在することを確認しました。長泥では0〜5cmに61%、0〜10cmに86%に放射性物質は分布しております。



▲村に設置されている食品検査機器

質問 営農活動推進に当たり、移動し続ける放射性物質(毒物)の影響をつかむ為にも、

土壌測定が必要であるが、どう対応されるのか計画を示せ。

答弁 作付者の要請により、測定の対応をいたします。

質問 村は、今でさえ

国の基準に違反している1mSv/年を基準としているが、村内の実態は国基準(1mSv/年)の5倍ないし10倍のところも多くある。野焼きするには、草集め、灰、ほこりの隔離をしないと、放射能が拡散し、帰村者や作業者が被ばくするが、

十分な対策を示すと共に、服装、ガラスバッチなど計測と体制について伺う。

答弁 長袖、長ズボン、

マスク、帽子、手袋を必ず着用して作業に当たり、野焼き責任者については個人積算線量計を所持し、身体に受けた放射線量を把握していきます。空気中は

各地区にあるモニタリングポストや大気を吸引する簡易型ダストサンプラーで計測する計画です。

質問 村全域に降参さ

れた放射性物質(毒物)は、アルファ線、ベータ線、ガンマ線が放出されたが、ベータ線のみ問題としている。放射能を浴びた村民の身体細胞は壊され、病気になっている。被害についての考えと対策を伺う。

答弁 放射性の被ばく

による村民への健康被害があるとは確認しておりません。避難による生活環境変化や放射線被ばくを心配することによるストレスが原因ではないかと思われる、高血圧や肥満、糖尿病、不眠症であったり、そういった原因による体調不良はかなりあるものと認識しております。



高橋 孝雄 議員

質 里山復興再生について

答 里山再生事業の創設を国に要望中である

質問 生活圏里山の復興、再生を進めるには、切り倒した木を搬出、焼却（減容化）するためバイオマス導入について、採算性を度外視し建設すべきと思うが、村当局の考えは何か。

考えております。

里山再生モデル事業についてもその事業だけで終わる事のないように、国に強く要望しているところです。本件については、特に、「各自治体に裁量権を持たせた交付金を我々に与えてほしい、そうする事で一生懸命村民の皆さんと相談をして取組んでいく」という話をしている所ですが思うような状況にありません。

答弁 村では村内の林業再開に向けて里山再生事業の創設や木質バイオマスの熱利用に係わる事業の実現が可能か検討をしていきたいと

質 駆除隊員の増員について

質問 村民が避難中にふえたイノシシや猿を駆除しなければ、農業を再開することは困難である。村内のハンター全員を駆除隊員に委嘱すべきである。村の考えを伺う。

答弁 現在村内の猟友会員は27名でその中から猟友会の推薦を受けている18名が活動をしています。

しかし村猟友会に入会されていない狩猟免許所有者もいるのとこので、なかなか思い通りにいかないのが現実です。猟友会員の高齢化が進む中で、新たに若い免許取得者に対して、取得費用の半額を支援するため当初予算に計上しているところです。イノシシや猿の被害は村民にとっては死活問題ですので駆除

に向けて全力を尽くします。

5級村道の舗装整備について

質問 昇口舗装工事により整備されたものの、幹線道路から昇口までの間の村道（5級）が砂利道となっている。このような条件の村道については舗装による整備をすべきと思うが、考えを伺う。

答弁 昇口舗装工事があります。昇口舗装工事度より着手いたしました。586件の工事が完了いたしました。しかし、接続の村道が未舗装となっている路線は12路線、約5、400mほどあり、現在の所、該当する補助事業や交付金事業はありません。今後は震災前に実施していた村単独事業の現道舗装や四割補助の村単独補助事業の道普請事業等で優

先順位を考慮しながら計画的な整備を検討していきます。

空き家の解体について

質問 空き家で持ち主不明の荒廃した家屋は、村が要望すれば環境省の事業で取り壊しをしてくれると聞いている。幹線道路沿いの家屋については早急な対応が望まれるが、村当局の考えを伺う。

答弁 村では住民周知はもとより各行政区長に依頼をし、地域にある所有者不明等の被災家屋の調査を実施してまいりました。

最終的に54件の被災家屋の報告がありました。うち28件は村のほうから地域の方の情報や登記簿等から所有者と連絡をとりまして、解体する方向で環境省と相談を終えているところでありまして、残り

の26件につきましては、所有者不明や未相続等で環境省による被災家屋解体を実施することが困難となっております。

環境省の家屋解体の新たな受け付けは現在しておりません。また、持ち主不明の家屋は、環境省へ村が要望しても、被災家屋解体を実施することはできません。もし幹線道路沿いで早急な対応が必要な家屋の情報があれば、現場確認をしまして、どのような対応ができるか検討してまいります。



▲荒廃した家屋



佐藤 一郎 議員

質 営農再開をどのように進めようとしているのか

答 農業を4つのステップ「農地を守る、生きがい農業、なりわい農業、新たな農業」で支援しながら再開に向けた取り組みをすすめている

質問 震災前、村の農業を支えてきた兼業農家への営農再開支援、また、営農再開を進めるための土地利用計画、営農再開全般について、どのように進めようとしているのか、現状と当初予算における村の考えを伺う。

答弁 農業を4つのステップに分けて、

ステップ1は、農地を守るということで、

福島県の営農再開支援事業、中山間地域等直接支払制度事業、多面的機能支払交付金事業を使って、平成30年度は約1,500ヘ

クタールの農地保全などを実施しているところ。当初予算においては、10億8,000万円を計上させて頂いています。

ステップ2は、生きがい農業について、農による生きがい再生支援事業で29年度、30年度を合わせて290件以上の活用実績があります。2年間で1億3,000万円を支出しています。

ステップ3は、なりわい農業について、県の原子力被災12市町村農業者支援事業（通称4分の3の補助事業）を活用し、2年間で70件の実績があります。素牛導入では50頭の活用実績があり、来年度も当初予算で3,500万円を計上しています。

ステップ4は、新たな農業について、被災地域農業復興総合支援事業で新しい農業をやりたい方に花卉用ハウス、ハウス型牛舎、畜産用機械、ソバ収穫・乾燥・調整用の機械、ミニトマト用ハウスなどを整備してきました。当初予算では約10億円を計上しています。

兼業農家で農業に従事することを希望される方がいれば、今後も相談に乗らせて頂きます。

このほか、農業基盤整備促進事業などによる用排水路や暗渠の再整備費用に別途10億円を計上しています。

再質問 多くの方が村外に住んでいる状況の中で、行政区へ農地流動をどう進めるのか、各重点事業を進めるに当たり村の生産計画なり工程表を示すべきだと思います。

さらに、次の総合振興計画に合わせて、具体的にどのような進め

方をするのか伺う。

再答弁 まずは個人個人で営農計画を作って頂き、それがある程度行政区単位とか地区でまとめて頂いて、地域でどう活用するかという部分で土地利用の計画が出来ると思います。そこから人・農地プランの計画ができて、中間管理事業が活用できるようにになります。

村民の買い物の場にC52

質問 いま村内での買い物は、道の駅、同駅のセブンイレブン、白石のローソン、また、2つの移動販売に頼っているが、震災前の農協のAコープのような買い物場所が必要である。当初予算における村の考えを伺う。

答弁 村民から村に対し、商業施設（店舗）の整備を求める声が多く寄せられています。

総合振興計画にC52

商工会員のある方などが、小規模ではありますが、商業施設の整備を図りたいとの情報も入っております。村としては商業施設整備への支援として、「ベンチャー企業創出補助金」を当初予算に計上したところです。

質問 総合振興計画をどのように進めていくのか。策定に当たっての構成員はどのようなものか。当初予算の考えと併せて伺う。

答弁 第6次総合振興計画は平成31年度から2ケ年をかけて策定します。計画の期間は平成33年度から5年間の中期計画とする予定です。村民の意見や考えが十分反映できるように考えてまいります。



長正 利一 議員

質 長泥地区復興再生計画について

答 平成35年度までに事業完了し、その後避難指示の解除を目指す

質問 長泥地区の復興

はどのように拠点整備を図るのか。また、住

環境や農業環境をどのように整備し、いつ頃までに避難解除をめざすのか伺う。

答弁 曲田地区を除く

約180haを区域とし、村民の帰還・居住に向けた活動拠点「居住促進ゾーン」、農用地の再生・利用を目指す「農の再生ゾーン」、区域内の文化資産を整備・再生する「文化交流ゾ

ン」の大きく3つのゾ

ンに分けて事業を進めていきます。

「居住促進ゾーン」は、長泥コミュニティセン

ター跡地の中心地周辺

約2ha程度の土地に、

短期宿泊が可能な新たな地区の集会所を建設

するほか、地域内外の

方との交流を図るため

の広場・施設などを整備

する予定です。

「農の再生ゾーン」は

除染で出た廃棄物を分別

し、再生利用可能な

資材を農地に客土、その上に仮置き場で使用

していた遮へい土のう

内の汚染されていない

土を覆土し作付可能になる見込みです。

「文化交流ゾーン」は、

地元の神社や旧所名跡

を対象とし、地元住民

が中心となり、保存・

継承を図っていくこと

を想定しています。

以上の事業について

は、計画では平成35年

までに事業完了、その後

避難解除を目指します。

再質問 「居住促進ゾ

ン」の中に村営住宅8棟

の計画を地域住民へ説

明しているが、村として

建設計画に変更はある

のか。

再答弁 長泥地区に戻

るかどうかが調査した結

果1人ないし2人しか

戻らない中での建設は

困難であり、建設すれば

維持管理費等も発生

することから、別な案

で国との調整をしている

質 帰村状況について

質問 直近での帰村状

況は（行政区・世帯数・

年齢階層別）また、帰

村状況をどう判断をして

いるのか。また、今後

の村づくりをどのように

すすめていくのか伺う。

答弁 3月1日現在の

状況は、帰還者数905

人、帰還世帯439世

帯です。人数・世帯数

は深谷行政区が最も多

く、89人43世帯、最も

少ないのは蕨平行政区で

4人3世帯です。

帰還率では大倉行

政区が最も高く、帰還

者数34人・行政区全

体では33・3%の帰還

率です。年齢階層別で

は、905人中60歳以

上が684人で全体の

75・5%、60歳未満は

221人で全体の24・

5%、若い世代の帰還

が進んでおりません。

村民一人ひとりそれぞ

れに様々な事情があり、

今後の村づくりについ

ては、一人でも多くの

村民が帰村できるよう

に、生活環境の整備、

なりわい、生きがい対

策の推進等、様々な取

組を行っていきます。

移住・定住・交流

事業について

質問 「移住・定住・

交流」施策は、今年度

の最重要事業と掲げて

いる中で、人口減少は

重要な問題であり、交

流事業は特に重要と考

えられるが、現在、村

が行っている事業につ

いて伺う。

答弁 交流事業の柱と

して、関係人口の増加

を目的とした「ふるさ

と住民票登録制度事

業」を行っており、村

に住民票がない方で、

村を応援したい、村と

のつながりを持ちたい

方に対し、「ふるさと

住民カード」を発行し

ています。カードを

持っている方へは、情

報提供をし、村が企画

する事業参加への呼び

かけなど、様々な特典

を受けることができます。

昨年3月の制度開始

以降、今年2月まで

292名が「ふるさと

住民」として登録され

ています。

有害鳥獣駆除隊員に

なる要件について

質問 サル、イノシシ

等の被害が増大してい

る中で、新規狩猟免許

取得者で意欲のある方

については、駆除隊員に

すべきと考えるが伺う。

答弁 村猟友会より推

薦を受けた方を村が委

嘱しています。狩猟免

許の所持年数、狩猟や

なわの経験年数、射撃

の訓練などを配慮して

推薦いただいていると

聞いております。推薦

については今後とも猟

友会と協議してまいり

ます。また、当初予算

では、狩猟免許取得す

る方への支援もしてい



高橋 和幸 議員

質 本年度の行政執行について

答 議会と行政は両輪。共に議論し合う

質問 復興テーマである移住・定住・交流事業の事業成果、実績等を伺う。

答弁 事業の実績につきましては、住宅の新築が1件で補助額が400万円、住宅リフォーム3件で218万1千円、家賃補助2件で7万円、就農支援2件で163万円、引越し費用補助17件で340万円、合せて25件で1,168万1千円であります。空き家、空き地バ

村民に寄り添う施策について

ンク制度は登録が29件、うち賃貸借で2件が成約済となっております。移住・定住の相談件数64件中19世帯25名が村への移住を決めています。今後とも議会と知恵を出し合い、総合的な子育て環境整備を基本に、少子化問題と共に魅力ある村づくりに努めてまいります。

質問 たびたび指摘のある、村民に寄り添わない行政組織との声を聞く。「一人ひとりに寄り添った将来構築への支援」の具体的かつ人道的な根拠ある事業成果、事業姿勢及び取り組み内容を伺う。

答弁 農業を中心とした生きがい、なりわいの再生、商工業者への支援、住宅整備による住居環境の整備等可能な限り支援を行ってきたところです。将来構築のためには、村民それぞれの自立を促すことも必要と考えています。村民の声を取り入れながら事業を推進していきたいと思っております。

質問 村民に寄り添う施策とは。現状・現実・行政力・財政、様々な観点から鑑みて、その土台となる要素とは何かを伺う。

答弁 住民登録制度の中で村から住民票を移



▲終了する仮設住宅

重要なので真摯な議論をしていきたいと考えております。

質問 無償提供が終了する仮設、借り上げ住宅支援で、今後の高齢者支援をどう模索していくのかを伺う。

答弁 訪問活動の強化、安否確認、健康管理支援、生活指導の実施、活動の場や雇用の機会の確保を検討してまいります。

除染廃棄物の搬出計画について

質問 フレコンの異様な風景が帰還を妨げているのは明らかであるが、明確な搬出計画と年数を伺う。

答弁 現在、可燃物36万袋、不燃物157万袋、計193万袋が仮々置場で一時保管中です。31年度の搬出計画は約40万袋です。村民の不安の声もあるので、国に早期搬出を求め、33

年度までに中間貯蔵施設への搬出完了を目指しています。

教育の在り方について

質問 将来を担う村の宝である子供達の教育は、村独自の個人と個性を生かした斬新な教育が必須である。ICT教育、タブレット端末利用、ペーパーレス導入等最先端技術を利用した教育の在り方を伺う。

答弁 村では平成27年度より、総合的に考える力を育て、個性をより伸ばして行けるような飯館型授業スタイルを進めてまいりました。タブレット端末や電子黒板を活用した授業を今までも行っております。引き続きICT教育関連機器を活用し、少人数一貫教育を効果的に進めて参ります。



佐藤 健太 議員

質 村内企業の人材確保支援について

答 関係機関と連携しながら情報を発信し、事業者と求職者とのマッチングを図り人材不足の解消に努めていく

質問 どの業種においても人手不足が大きな課題となっているが、本村も例外ではなく各事業所で従業員の確保が非常に難しい状況が続いており、今後の本村の税収や復興にも大きなロスとなる。これにあたり、国、県へも人材確保支援を要請

し、移住定住交流政策と合わせて村をあげて人材確保対策をより積極的に行うべきと考え、村の見解を伺う。

答 人材の確保をするための求人活動を支援する「人材確保支援事業」があります。この事業では、官民合同チームや福島求人支援

チームの人材コーディネーターが事業者を戸別訪問し、雇用状況等をヒアリングしております。

これにより求人のための折込みチラシを年2回発行したり、インターネット上へ求人募集の掲載を行った結果、平成29年度では26件の求人に対して16件の応募がありこのうち2名が採用になりました。

今後、関係機関と連携しながら情報を発信し、事業者と求職者とのマッチングを図り人材不足の解消に努めていきます。

再質問 移住を希望される方に、移住定住の案内と共に村内の事業所の求人情報もあれば親切ではないか。

再答 事業所関係については具体的な聞き取りは行っていませんが、村としての対応が必要だと思えます。

で、今後さらに詰めてまいります。

質 いたて村の道の駅「まほろ館」について

質問 いたて村の道の駅「まほろ館」の経営改善状況を伺う。

答 開業から商品の充実や地域拠点としての機能を充実して来ましたが、管理体制や仕入れコストの見直しが不十分なまま運営をしてきたため、過剰なコスト等が改善されず経営が悪化し資金繰りが厳しい状況となっています。昨年9月より外部コンサルタントにより運営及び経営などの状況を調査、分析をして、経営改善策を検討してきましたところ。12月1日より新たな駅長が就任をし、施設運営や仕入れコストの削減、接客対応など改善にむけて積極的に取り組んでおり、地道な営業活

動を行った結果、一定の売上を得ることが出来ました。これからも収益管理に努めながら、村の賑わいの創出と施設の健全経営に努めてまいります。

質 旧学校施設の活用について

質問 旧小学校の校舎や体育館などの活用方法をより具体的に検討するため、地域や企業を交えた話し合い等はなされているのか。また、その窓口はあるのかを伺う。

答 庁内に公共施設利活用検討委員会を設置し検討をした結果、3つの小学校校舎については用途変更をし、草野小学校は村内遺跡からの発掘物及び贈呈された図書等の保管場所へ、飯樋小学校は、改修し研修施設へ、白石小学校は、民間への貸事務所などとして活

用して行くべきとの方針が示されました。

また、今後は建物の特徴などを十分に生かした活用を具体的に検討するために、各小学校の学区に係る行政区、企業、村民の皆さんの意見を反映することが出来る仕組みづくりについて、今後検討してまいります。

後述 庁内検討委員会の方針イコール決定事項という形にするのではなく、もっと広く情報を収集し、今後の村にとって必要な場所にしていくことが大事。この学校という1つの場所をめぐって村民が10年後20年後の村のビジョンを語る様な機会を増やすべきで、そこに企業や思いのある村外の方たちも含め検討し、プランの構築ができれば良い場所に繋がっていくと思う。

審議結果

1月臨時議会では平成30年度一般会計補正予算1件、その他案件1件が提案され、審議の結果原案のとおり可決されました。

議題は下記のとおりです。

- 議案 平成30年度飯舘村一般会計補正予算(第8号)
- 議案 飯舘村パークゴルフ場整備工事請負契約について

3月定例議会では平成30年度一般会計補正予算、特別会計補正予算5件、平成31年度一般会計予算、特別会計予算5件、条例7件、その他案件7件が提案され、審議の結果原案のとおり可決されました。

議案は下記のとおりです。

- 議案 平成30年度飯舘村一般会計補正予算(第9号)
- 議案 平成30年度飯舘村国民健康保険特別会計補正予算(第4号)
- 議案 平成30年度飯舘村簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)
- 議案 平成30年度飯舘村農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)
- 議案 平成30年度飯舘村介護保険特別会計補正予算(第5号)
- 議案 平成30年度飯舘村後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)
- 議案 平成31年度飯舘村一般会計予算
- 議案 平成31年度飯舘村国民健康保険特別会計予算
- 議案 平成31年度飯舘村簡易水道事業特別会計予算
- 議案 平成31年度飯舘村農業集落排水事業特別会計予算
- 議案 平成31年度飯舘村介護保険特別会計予算
- 議案 平成31年度飯舘村後期高齢者医療特別会計予算

- 議案 飯舘村営住宅条例の一部を改正する条例
桶地内団地並びに飯樋町集会所建て替えに伴う改正
- 議案 飯舘村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
働き方改革を推進するため、職員の超過勤務命令を行うことができる上限時間を定める改正
- 議案 職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例
学校教育法の一部を改正する法律の施行に伴う改正
- 議案 議会の議決事件に関する条例の一部を改正する条例
議会の議決すべき事件に「総合計画の策定又は変更に関すること」を追加
- 議案 東日本大震災に伴う村税の減免に関する条例の一部を改正する条例
個人村民税の減免終了及び固定資産税、軽自動車税の減免を1年延長するための改正
- 議案 飯舘村水道法施行条例の一部を改正する条例
学校教育法の一部を改正する法律等の施行に伴う改正
- 議案 飯舘村さわやか基金設置条例を廃止する条例
上山競馬飯舘場外勝馬投票券発売所閉鎖に伴い収入見込みがなくなったことから基金を廃止する
- 議案 桶地内団地建替工事請負契約の変更について
精査による減額変更
- 議案 飯舘村農林漁業体験実習館の指定管理者の指定事項の変更について
飯舘楽園株式会社の解散により指定管理者を一般財団法人飯舘村振興公社へ変更
- 議案 飯舘村健康増進交流施設の指定管理者の指定事項の変更について
飯舘楽園株式会社の解散により指定管理者を一般財団法人飯舘村振興公社へ変更
- 議案 飯舘村地域資源活用総合交流施設の指定管理者の指定事項の変更について
飯舘楽園株式会社の解散により指定管理者を一般財団法人飯舘村振興公社へ変更

○議案 村道路線の認定について

八木沢トンネル開通により、旧県道を八木沢原町線として、2級村道として認定する

○議案 飯舘村教育委員会教育長の任命につき同意を求めることについて

遠藤 哲氏を教育長に任命することに同意。任期は3年

○議案 固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて

齋藤政行氏を再任。任期は3年

3月定例会での請願・陳情審査結果

議案番号	件 名	請 願 者	審査結果
平成30年 請願第6号	村内居住者の放射線被ばく回避に関する請願	伊藤 延由	趣旨採択
平成30年 請願第7号	生活再建に対する補償に関する請願	伊藤 延由	趣旨採択
平成31年 請願第1号	村民による、原子力損害賠償紛争解決手続き（ADR）と裁判による東京電力への和解受託・賠償支払いに対する要求書及び国への意見書提出を求める請願	飯舘村生活と健康を守る会 会長 菅野 今朝男	採 択

3月定例会採決一覧

議案名	議員名	議決結果	賛成	反対	佐藤 健太	長正 利一	佐藤 一郎	高橋 孝雄	高橋 和幸	渡邊 計	佐藤 八郎	相良 弘
【予算審査特別委員長提出】 平成31年飯舘村一般会計 予算 修正案		否決	3	4	○	×	×	×	×	○	○	
平成31年飯舘村一般会計 予算 原案		可決	4	3	×	○	○	○	○	×	×	

○は賛成、×は反対を表しています。議長の菅野新一は表決にかかりません。

議会を傍聴してみませんか

氏名の記入など簡単な手続きで傍聴できます。是非お出かけください。

※尚、タブレット・パソコンでも視聴できます。

今後の議会の予定

6月定例会：6月11日 開会、13・14日 一般質問、18日 閉会(予定)

飯舘村の復興と再生に関する要望書

1. 里山等森林域の放射性物質低減と減容化及び林業再生について
 (1) 林内作業基準の弾力的運用について
 (2) 里山再生モデル事業からの早期本格実施について
 (3) 森林域の放射性物質対策について
 (4) 森林再生対策について
 (5) 放射性物質の処分について

要望先

・経済産業大臣 世耕 弘成様
 ・環境大臣 原田 義昭様
 ・農林水産大臣 吉川 貴盛様
 ・復興大臣 渡辺 博道様
 ・総務大臣 石田 真敏様
 ・厚生労働大臣 根本 匠様

2. 東京電力福島第一原子力発電所事故災害特別措置法（仮称）の制定について
 3. 生存権に保障されている住居確保について
 4. 農地の復旧について
 5. 東京電力福島第二原子力発電所を全基廃炉とすること
 6. 帰還困難区域への対応について
 7. 介護従事職員の確保について



東京電力福島第一原子力発電所事故に係る避難指示解除後の賠償等に関する要望書

平成31年2月13日要求 平成31年3月28日回答

要求先

東京電力ホールディングス株式会社
 代表執行役社長 小早川 智明様

1. 避難指示解除後における村民の農林業・商工業等の経済基盤が事故前の水準に回復するまで、賠償を継続すること
 回答 「損害がある限り賠償する」という考えのもと、引き続き、弊社事故と相当因果関係のある損害につきましては、ご事情を丁寧にお伺いし、適切に対応させていただきます。

2. 森林再生事業、里山再生モデル事業等による放射性物質の低減と減容化について、貴社の責任を明確にし、技術的、経済的な負担をすること
 回答 弊社だけでは解決できない課題であり

あることから、国または地方公共団体の施策の動向などに合わせて、弊社としてできることに最大限取り組みたいと考えております。

3. 原発事故による被災者への「5つの約束」と「3つの誓い」を厳守すること
 回答 被害者の方々に対して、親身、親切な賠償を行うために「5つの約束」を厳守すること

4. 特別養護老人ホームについて、介護従事職員の人的保障をすることともに、事業損害賠償を継続すること
 回答 人的保障につきましては、弊社が直接ご協力させていただくことは難しいと考えております。引き続き、地域復興にお役に立てるように取り組んでまいります。

また、弊社事故と相当因果関係のある損害が確認できた場合には、適切に対応させていただきます。

5. 東京電力福島第二原子力発電所の全基廃炉時期の明確にすること
 回答 社長直轄のプロジェクトチームを立ち上げ、「発電所の安全な廃炉」、「福島第一原子力発電所の廃炉作業も含めた人的リソースの確保」、「経営全般に及ぼす影響」等、様々な観点から課題を整理し、具体的な検討をすすめておりますが、4基同時の廃炉は国内でも例がなく、また並行して福島第一原子力発電所の廃炉作業を安全・着実に進める必要があることから、多岐に亘る課題を整理し、具体的な検討をすすめているところです。スピード感を持ちつつ、地域の安全に沿うものとなるよう、検討を進めてまいります。

決できない課題であり

「最後の一人までの賠償貫徹」、「迅速かつきめ細やかな賠償の徹底」、「和解仲介案の尊重」という、「3つ

の誓い」を掲げ、全力で取り組んでまいりました。引き続き、被害を受けられました方々に寄り添った賠償を進めるとともに、個別のご事情を斟酌しながら、「3つの誓い」を遵守し、親身・親切な賠償に取り組んでまいります。

また、弊社事故と相当因果関係のある損害が確認できた場合には、適切に対応させていただきます。

議会の主な動き(1～4月)

《1月》

11日 議会改革特別委員会

18日 第1回議会臨時会

20日 新春のつどい

31日 福島圏域議会議長連携推進協議会設立会議(福島市)

《2月》

4日・7日

・東京電力福島原子力発電所事故災害復興対策委員会

8日

・相馬地方町村議会議長会議(相馬市)

・相馬地方土地開発公社理事會(相馬市)

・相馬地方市町村会役員會(相馬市)

9日

・第2回相馬野馬追保存会総会(南相馬市)

13日

・要望活動(東京都)

20日 第2回福島県町村議会議長会定期総会

・相馬地方町村議会議長・議会事務局長合同会議(福島市)

《3月》

4日 第2回定例会本会議(開会)

7日・8日

・本会議(一般質問)

11日・12日・14日

・予算審査特別委員会

19日 本会議(閉会)

《4月》

11日・12日

・原発事故による帰還困難区域を抱える町村協議会要望活動(東京都)

23日

・広報編集特別委員会

常任委員会 の活動

総務文教常任委員会

平成31年1月29日に飯館村消防団の状況と今後について所管事務調査を行いました。

●調査内容

震災後の消防団の現状と課題について村総務課より聞き取りを行いました。

《調査結果》

・震災前と比べて団員数の減少、若い団員の加入が無く、高齢化が進んでいる。
・検閲式や出初式への出席団員が減少。
・今後の課題として消防団員をどのようにして確保するのか。企業への呼びかけを行っているが、進んでいない状況。
・近隣市町村からの応援は要綱等を定めないと出来ない。

感想

・連絡網の整備が必要であり、幹部から部下への連絡体制が出来ているのかなどの再確認が必要である。

・火災等が発生した場合にどのような行動すればよいのか分からない団員が多く、教育体制の見直しが必要である。

・消防分署の建替えにより、消防備品類を置く場所が無いため、保管場所の確保も緊急の課題である。

産業厚生常任委員会

平成31年2月1日飯館村森林組合との意見交換会を行いました。

●調査内容

・平成31年2月中央省庁要望事項の説明
・森林組合長から森林再生に向けた現状と提案がありました。

感想

・里山再生実証事業の本格実施
・福島森林再生整備事業の可視化

・里山再生の加速化、間伐材等のバイオマス利用による減容化が必要。

・里山再生事業と福島林業再生事業の相互推進を進めるべき。
・福島特別措置法の改正、森林環境税の有効利用が必要。



▲森林組合との意見交換会

編集後記

長泥地区を除いての避難指示解除から早2年が経過し、年号も「平成」から「令和」に代わり時代がまた一つ進みました。しかし、まだまだ課題は山積ですので、引き続き村議会議員一同、気を引き締めて取り組んでまいります。

【飯館村議会事務局】

〒960-1189

伊丹沢字伊丹沢580

番地1

☎0244-4211628

発行責任者

議長 菅野 新一

編集

広報編集特別委員会

委員長 相良 弘

副委員長 佐藤 健太

委員 渡邊 計

高橋 孝雄

長正 利一

佐藤 一郎

高橋 和幸